

市民が安全に、安心して暮らせる松江市のまちづくり

～おもてなしの心で迎える国際文化観光都市・松江～

1. 松江開府400年

文豪小泉八雲が愛し、著書『知られぬ日本の面影』により“和の心と日本の美”が広く世界に紹介された松江市は、ラムサール条約登録湿地である宍道湖、中海や日本海に囲まれた水の都であり、その明媚な風光と、わが国の歴史、文化等の正しい理解のため不可欠な数多の貴重な文化財を保有していることから、松江国際文化観光都市建設法により、奈良市、京都市と並ぶ国際文化観光都市となっています。明治4年（1871）に県庁が置かれ、同22年（1889）全国の38市とともに市政を施行した当時の市域は4.78km²・人口35,513人でした。その後、数度にわたる合併を行い、平成17年3月には縁あって周辺の7つの“まち”とひとつに結ばれ現在の市域530km²、人口約20万人となり、山陰の政治・経済・文化の中核都市として発展を続けています。

「城下町松江」のまちづくりは、慶長16年（1611）堀尾吉晴公が亀田山に城を築き、白潟・末次の二郷をあわせて松江と称したことにはじまります。5年の歳月を掛け、慶長16年（1611）に松江城と城下町が完成し、今日に見る都市の基礎が形成されました。平成19年（2007）、松江市は開府400年という記念すべき年を迎え、松江城、城下町の建設に懸けた堀尾公の情熱に倣い、2007年度から2011年度までの5年間にわたって「松江開府400年祭」を展開することとし、「歴史・文化・伝統の薫る城下町」をテーマに、全国に誇れる松江の歴史を活か



した「まちづくり」とそれを担う“ひとづくり”に開府400年を出発点として取り組んでいます。

した“まちづくり”とそれを担う“ひとづくり”に開府400年を出発点として取り組んでいます。

2. 快適に住めるまちづくりを、おもてなしの心に

超高齢化社会と人口減少社会の到来や都市間競争の激化など地方都市を取り巻く環境が大きく変わってきている昨今、本市においても自立した都市機能を備えた、魅力あるまちづくりが求められており、恵まれた生活環境を有し、日本海沿岸地域のアジア大陸への玄関口となりうる高いポテンシャルなどを活かして、中海沿岸の県境を越えた中核圏域の形成を目指し、平成21年4月に鳥取県米子市とともに、全国的にも稀な2県にまたがる複眼の定住自立圏共同中心市宣言を行いました。

この圏域の中で本市は、中核的な都市機能の充実により、誰もが安心して心豊かに安心して暮らせるまちづくりを目指し、持続可能な集約型都市構造への転換を図るため、松江市住宅マスタープラン等に基づき、街なか居住、空き家対策、空き店舗対策などのソフト事業を展開するとともに、まちづくり交付金を活用した中心市街地と旧町村中心部における拠点整備など、さまざまな施策を進めています。

堀尾公が築いた松江城天守と塩見縄手沿いの武家屋敷をはじめとする古い街並みや、神話の国出雲を物語る神魂神社、美保神社、佐太神社などの貴重な文化財を有していることから、これらの建造物と歴史と伝統を反映し営々と展開されてきた市民の生活を併せ、歴史まちづくり法による歴史的風致維持向上計画の認定を視野に入れたまちづ

松江市長 まつ うら 松 浦 まさ たか 正 敬



くりに取り組んでいます。

四季折々に表情を変える宍道湖の情景は、松江市固有の風景であり、象徴です。とりわけ宍道湖に沈む夕日の美しさは、日本夕陽百選にも選定されている絶景であり、住む人、訪れる人を魅了してやまず、市民の誇りの一つとなっています。この夕日を安全で安心して鑑賞できる「宍道湖夕日スポット」として、国土交通省をはじめとする関係機関の連携のもと、計画段階から市民や利用者の意見を積極的に取り入れ、通行者の安全性や鑑賞・撮影者のたまり場としての機能に配慮し、平成19年3月に整備しました。さらに、訪れる人にもより確実に鑑賞いただけるように、平成19年8月から日本気象協会の協力を得て、日本初の試みとして、その日の夕日が見える度合い「夕日指数」を予報し、ホームページ上で全国に向けて発信しています。

こうした快適に生活できる都市環境を整備する取り組みにより、市民が市に愛着と誇りを持つこと



が、訪れる人に対する「おもてなし」の心につながり、全国・世界の人たちと“縁”を結べるものと確信しています。

3. 人にやさしいまちづくり

本市においては、住む人はもとより、訪れる人にも安全で、安心して、快適に過ごすことができる国際文化観光都市・松江を目指すことを決意し、「松江市人にやさしいまちづくり条例」を平成20

年6月に制定しました。市民一人ひとりが相互理解と尊重の心をもち、自ら率先して障がい者や高齢者、外国人、観光客などを含むすべての人にやさしいまちづくりに取り組むとともに、「おもてなしの心」の醸成を図るものです。そして、市民や地域のコミュニティ、事業者等の意見、提言を取り入れ、すべての人が安全に、安心して、快適に利用できる道路・公園・建築物などの整備と生活環境を確保することを、市の責務として計画的に進めています。

こうした本市の特徴を活かした快適なまちづくりはもちろんのこと、前述の定住自立圏の構築と、合併により広域化した本市が目指す拠点連携型都市構造の実現のために、圏域間の交流を促進する基幹道路網の整備はこれまで以上に重要な課題であり、こうした施策に積極的に取り組むことができる制度の維持・構築を関係機関に強く要望するところです。

最後に、旧暦の10月は“神無月”と言われていますが、当地方においては神様が集まってくることから“神在月”^{かみあり}と言います。「松江開府400祭」を展開しているこの機会に、神話と伝説の国出雲、和の心あふれる城下町松江、日本最古の温泉・玉造温泉に代表される数々の温泉や松葉ガニをはじめとする日本海の幸に恵まれた松江に、ぜひ足を運んでいただき、宍道湖の夕日を堪能いただくようお願いして、巻頭の言葉といたします。

『だんだん』(NHK朝の連続テレビ小説で紹介された、出雲地方の方言で「ありがとう」の意味です。)